

平成19年度第1回（第6期第5回）浦安市廃棄物減量等推進審議会（議事要旨）

1 開催日時 平成19年5月14日（火） 午前10時～午前12時

2 開催場所 文化会館 中会議室

3 出席者

（委員）

横山会長、大高委員、奥井委員、都築委員、大塚委員、西出委員、加納委員、
小林委員

（事務局）

古賀部長、押尾次長、永井課長、加藤主査、飯沼主事、土田主事

4 議 題

（1）一般廃棄物処理基本計画の策定（改定）について

（2）イベントごみ減量ガイドラインについて

5 議事の概要

（1）平成18年度のごみ量の実績についての説明。

（2）事務局より一般廃棄物処理基本計画の策定（改定）の経緯についての説明。

（3）イベントごみ減量ガイドラインの策定について、

6 会議経過

傍聴者の入場、会長挨拶、人事異動による都市環境部次長による挨拶を行った後、会長が議事を進行した。

事務局より、一般廃棄物処理基本計画の策定及び答申書についてのお礼と市長に答申を提出した旨の報告をした。

事務局から「平成18年度ごみ量の実績について」の説明を行い、委員より意見及び質問を受けた。その際の意見及び質問と事務局の回答は次のとおり。

- ・委員 平成18年度は家庭ごみの減量が特に進んでいて、年間でも原単位で約50グラム減っている。新しい基本計画での目標は平成17年度比で70グラム以上の削減だが、簡単に達成できる数値に感じてしまう。

この目標数値は国なりの目標に準じて設定したということだが、逆に主張が足らなかった自分たちも悪い。せつかく指定ごみ袋制導入で良い結果が出たのに、市民のやる気を削ぐことにならないようにする必要があると

思う。

- ・事務局 確かに、千葉市など大胆な計画を策定したところもあり、比べれば寂しい感じがします。コンサルタント会社が試算していった時に、ネガティブではありますが、他市の事例では、リバウンドにより、ある程度経つと、様々な施策が必要になることが多くあるようです。

一つの目標として高くやるやり方もあったかなと思うが、今回は冷静に数字を積み重ね上げた結果と理解していただければと思う。

- ・会長 もっと前向きな目標をとという議論もあったが、経済情勢などもあり、なかなか数値にするのは難しかったと思います。市民にどれぐらいの負担を強いることができるかという考えもあり、今後は、引き続き推移を見ながらということになるかと思います。

続いて、事務局より、イベントごみ減量ガイドラインについての説明を行い、委員より意見及び質問を受けた。その際の意見及び質問と事務局の回答は次のとおり。

- ・委員 私はごみを減らすため、トレーとかタッパーとか箸を持ち歩いています。家庭ごみなんかは3分の1になった。

- ・委員 市民まつりでやっていたリユース食器でお餅を食べたが、その場で使っていたリユース食器は業者のものですか？どのような仕組みですか？自治会の規模で業者を利用するのは可能でしょうか？

- ・事務局 山梨にリユース食器を貸し出すNPO法人があり、市民祭りでは1万セットぐらい借り、1日2000枚ぐらい配りました。使用後は、洗わずにそのまま返す仕組みです。自治会の規模で業者を利用するのも可能であり、紹介できますが、規模や予算によると思います。大まかな料金は、皿1枚25円で、未使用なら半額、紛失は1つ100円という仕組みになっています。

市が行ったリユース食器事業は啓発であり、コスト面で合わないが、自治体規模で、食器の持参などの方法が非常に効果があります。これまで、ある自治会でモデル的に協力してもらいましたが、ごみが出なく、ストレスも少なく出来ました。デポジット制であれば、容器を持ち帰る人はなくなるとは思いますが、お釣りなど管理で手間がかかります。規模が大きいようであれば、業者を介在したほうが運営しやすいと思います。

- ・会長 このガイドラインには問い合わせ先などは書かないのですか？費用対効

果など色々考えると、まず聞きたいと思うのではないのでしょうか。

- ・委員 リターナブルビンが一番環境に優しいという説明になっているが、ビンに比べて、缶やペットで中身を入れ替えて使えば資源節約になると思いますが。
- ・事務局 ビンや缶よりもコップを持参してもらうのが一番ですね。
- ・委員 祭りとかではラムネのビンが人気ありますね。
- ・事務局 ラムネのビンは、現在はリターナブルではなく、ワンウェイになってしまっています。
- ・委員 プラスチックでできているボトルもありますね。
- ・事務局 ごみの基準を厳しくしすぎても祭り自体が面白くなってしまっただけでは問題があるので、できる範囲で考えていただければと思います。
- ・委員 やればできると思います。キャンプ場で使い捨ての紙皿とかを捨てていくのを見かけなくなった。持ち帰る意識が浸透しているのかなと思う。
個人的な興味としては、浦安市のイベントでのごみ発生量はどのくらいなのかを知りたいと思う。イベントでの人出が減ってきているので、ごみ量も減っていると思う。運営サイドは人が来るようにするのが一番の目的であるので、なかなか判断が難しいかなと思います。
- ・事務局 昨年の市民まつり2日間では、1日目が800kgぐらい、2日目が1200kgぐらいでした。ただ、昨年のごみ出し監視が徹底できてなかったようで、一昨年よりごみ量が増えてしまったため、露天からのごみが大半だったのかなと思います。イベント時には、そのようなごみを出させないようにすることも必要だと思いました。
- ・会長 正しい分別を知らないで捨てている人もいるだろうし、ごみ捨て場に人が立っていると違うと思います。
先日、長野県で宿泊し、ごみ出しを体験した。1ヶ月に1回ビンや缶を遠いところまで持っていくと、早朝なのに人が立っていて、指図するわけではなく、一緒に考えながら分別をしていた。イベント時も、指図するより一緒に考えるような自治会の役員とかがいると楽しいかなと思いました。
- ・委員 ターゲットは、防災まつりなど比較的小さいまつりからだとやりやすいのかと思いますが。
- ・事務局 市民まつりなど大きい規模から始めてしまいましたが、小さい規模から

積み重ねるのも一つの方法ですね。

- ・委員 数年前に自治会で環境の担当をやったとき、イベントごみで悩んだ経験がある。集団資源回収と同様に、どのように地域に知らせるかが大切と思った。そして、参加者にどう伝えるかが大切。イベント時にごみ箱で可燃・不燃分けていたが、人がいないと後で結局まとめる作業が必要になってしまうので、役員が付く必要があると思います。

市の単位で呼びかけたりすると広まると思う。地域とか学校とか教育の場でも、イベントの時期に併せてやってもらおうと助かる。子供会と自治会とかと協力するのが良いのかなと思った。ビンは、運営側となると持ちやすさ、割れて危険などの問題あるが、地域で考えればいいのかなと思います。

- ・委員 よくできたガイドラインだと思うが、あとは守る側の問題だと思います。子供とかには、なぜこうなのかという意識付けが必要だと思います。主催者側は難しいと思うが、使い捨て容器が使えるようになっていると甘えの考えが出てしまうと思うので、例外を作ってはいけないと思います。あと、ごみ箱に人が立って呼びかけることも必要と思う。学校でも指導しているが、一緒にいく保護者がどう受け止めるかが大切。子供が家庭に入って、子供から大人を啓蒙する方法もあるが、逆に親から子供を啓蒙する方が教育的と思うので、両方でやっていけばごみも減らせるかなと思う。

- ・会長 若者のコンサートでごみを集める作業のみのボランティア大学生がいて、毎年それを見ている参加者も気をつけるようになった。毎年毎年見ていれば苦勞を理解して数人ずつでも増えていくと思う。

- ・委員 食器を貸し出してくれる業者を利用するとコストがかかるが、人間を配置するならコストがかからないしすぐできると思いました。

先ほど出たラムネのびんについて、数年前は再使用できたが、今はできない。今はビンでも一度割ってリサイクルしている種類が多いため、簡単なのはペットボトルだが、市の収集で費用がかかってしまうと。

- ・委員 自治会まつり程度だと規模が小さくなるが、コストがかかるのではないのでしょうか？

- ・事務局 300 とか相当数がないと難しいと思います。

- ・委員 ただ、持って行かなくてもいいやという考え出てしまうと、効果がなく

なってしまうので、持参を前提として、どこまで許すかが問題でありますよね。

- ・委員 通りかかりに祭りをやってるからふらっと寄ることもあるので、持参しないといけないとなるとお客さんが減るのかなというのがあります。
- ・委員 自分は厳しいかなと思う。金銭的なインセンティブでいいかなと思う。2杯のところを3杯食べれるとかの特典でいいと思います。
- ・事務局 去年の自治会でお願いしたところでは、自治会が考えたことですが、容器等の持参者に50円の金券を配布していました。また、食品の種類によってどうしても使い捨て容器が必要になるものもあったので、使い捨て容器を併用していたが、それでも何か持参した方には割引券を配布していました。

もうひとつは、餅つき大会でしたが、自治会の回覧等で周知して、持ち込み容器しか認めなかったため、ごみ量が30%2個ぐらいだったので、こちら側もびっくりしました。

- ・委員 私たち、運ぶ仕事側としては、食べ物のトレー類がかなり多いのがよく分かります。夏はイベントで飲み物やカキ氷のお店が多いが、家から持参させるとサイズがバラバラであるので、辛いのかなというのがある。やきそばやカレーだったら大盛りにするとか焼き鳥を1本多くするとか、自治会レベルならば金券を使って協力を呼びかけたりしてできると思います。先ほど話しが出た、ふらっと立ち寄る時や一番大きい祭りの花火大会を考えると、ほぼプロの屋台が出ていますから、協力は難しいと思います。ですから、まずは自治会から協力を呼びかけるのがいいと思います。
- ・会長 花火大会翌日にごみ拾いに参加したことあるが、すごい量だった。自分で持ち込んだごみを置いていく人が多くいるのはびっくりした。難しいかと思うが、持ち帰りを呼びかけないといけないなと思いました。
- ・委員 お弁当を持参する人は持ち帰るが、コンビニとかで買う人は大抵置いていってしまう。自治会レベルなどの小さい規模からやっていけばいいかなと思います。
- ・委員 イベントごみ減量ガイドラインについて、よくできた冊子だと思う。イベント時には、意識してもらうのが一番大事と思うので、始まる前後などに説明をしたり、挨拶に取り入れてもらうというのはどうかなと思う。

- ・事務局 このガイドラインを持ってイベント等に出掛けていくが、当然、今の発言の趣旨を理解し、主催者から依頼があったり、理解していただければ、話をするようにしていきたいと思います。
- ・委員 大きいイベントとなると露天商が入ってしまう。露天商は警察など別のところに届けを出し、別にルールがあるようである。ポスターやパンフレットで合言葉のようなものを作って、警察などを通じて事前にこちらから伝えることも必要だと思う。
- ・委員 分かりやすい工夫をしたパネルなどを市で事前に作っておき、イベント時などに展示して訴えるなどしたらどうかと思います。難しい内容ではなく、一目で注意をひくような表現でいいと思います。
- ・委員 市内でごみのうめ立てをするのはまったく不可能なのではないでしょうか？
- ・事務局 東京都は中央防波堤で埋め立てています。浦安市で考えると、海を埋めるしかないので、不可能と思います。
- ・委員 見えない場所に埋めているから意識しにくいと思う。住んでいる場所の近くにあると、もっとごみ問題について自覚するのではないのでしょうか。
- ・事務局 街中だと、いわゆる迷惑施設となっているので、多摩地区など、様々な場所で問題になっています。近隣の方にとっては受け入れにくいいため、どうしても山の中など人里離れた場所になってしまいます。もちろん地下水汚染防止など管理する必要はありますが、浦安ではまず不可能と思います。

続いて事務局より、今後のスケジュールなどについて連絡を行い、終了となった。